佐賀県の地質・地形

佐賀県の地形は、どうやってできたのだろう？

玄界灘

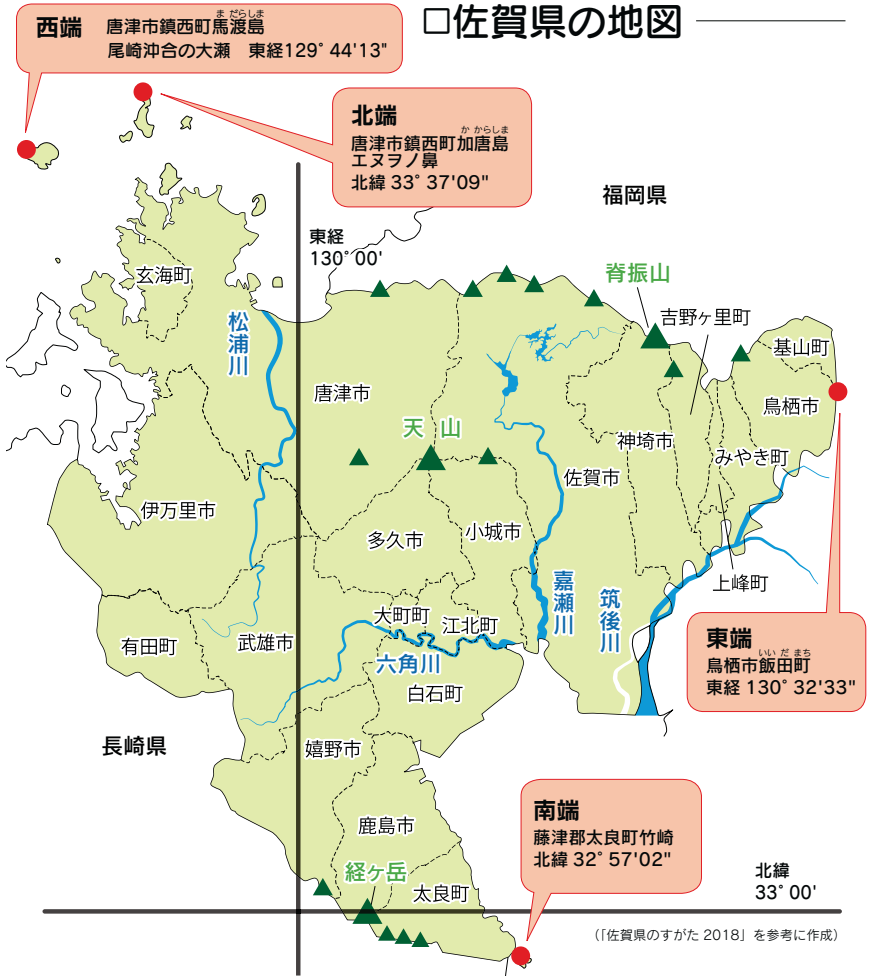
九州の北西部に位置する佐賀県は、東は福岡県、西は長崎県に接しています。北は玄界灘、南は有明海に面しており、県土は北東部の脊振山地や南部の多良山地、佐賀平野などさまざまな地形で成り立っています。比較的温暖な気候で、それぞれの地形や自然の恵みを生かした産業が発展しています。

私たちが住んでいる地域の地質の違いを探っていきましょう！

有明海

（写真は佐賀県観光連盟 提供）

□佐賀県の地図



（「佐賀県のすがた 2018」を参考に作成）

〈佐賀県の標高800m以上の山岳〉

●経ヶ岳	1076m	●脊振山	1055m	●天山	1046m
●多良岳	996m	●井原山	982m	●金山	967m
●雷山	955m	●羽金山	900m	●作礼山	887m
●黒木岳	881m	●蛤岳	863m	●九千部山	847m
●彦岳	845m	●一ノ宮岳	827m	●国見岳	816m
●浮嶽	805m				

（資料：国土交通省国土地理院）

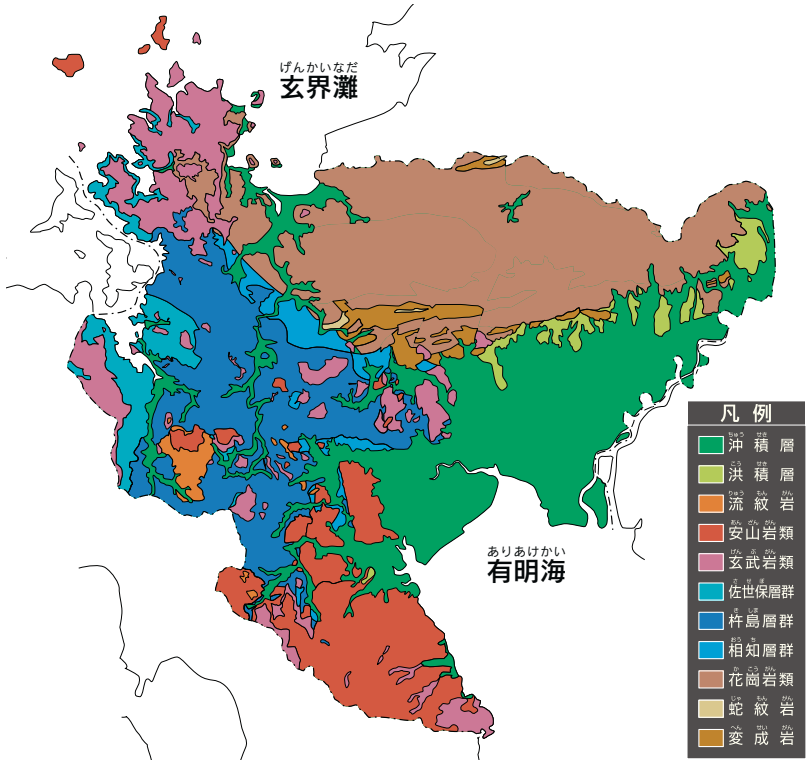
〈佐賀県の一級河川の長さ〉

●嘉瀬川	57500m	●松浦川	45250m	●六角川	43515m

（「佐賀県のすがた 2018」より）

佐賀県の地質は、何億年も前から長い年月をかけて作られ、現在も少しずつ変化をしています。県内各地の岩石や地層などから、それぞれの地質の特徴を知ることができます。

□佐賀県の地質図



（佐賀県「佐賀県の地質と地下資源（1954）」、経企庁「佐賀県土地分類基本調査（1974）」）

佐賀県の地形は、北部の山地、西部の丘陵地、南部の山岳地、東部の佐賀平野の大きく４つに分けられ、それぞれに特徴のある地質の分布が見られます。

脊振山地を中心とした地域（古生代～中生代に形成）
佐賀の大地の基盤（地質：花崗岩・変成岩など）

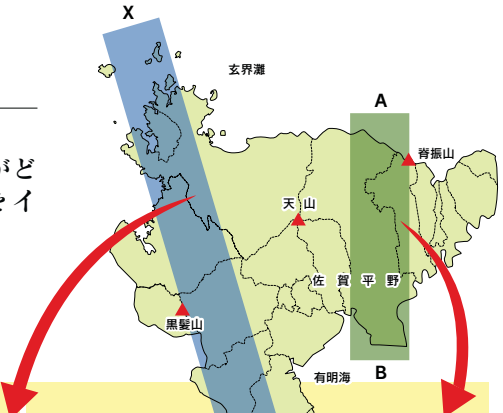
丘陵地を中心とした地域（新生代 古第三紀に形成）
浅い海の底や湖の底だったことを表す地質（地質：佐世保層群・杵島層群・相知層群など）

多良岳や台地を中心とした地域
（新生代 古第三紀～新第三紀に形成）
火山活動によってできた大地（地質：多良…安山岩、上場台地…玄武岩が中心）

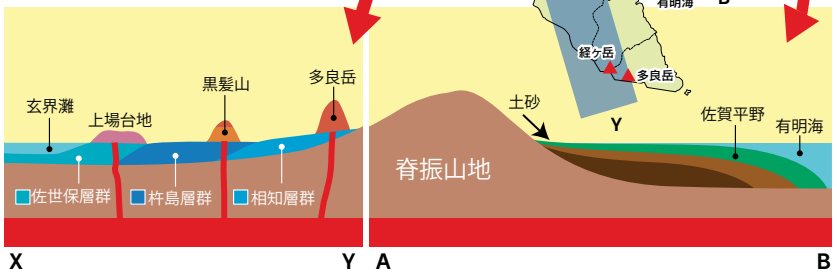
佐賀平野を中心とした地域（新生代 第四紀に形成）
（地質：有明粘土層、島原海湾層、軽石火山灰層など）

□佐賀県の地形の成り立ち

それぞれの特徴的な地形がどのように変化してきたかをイメージしてみましょう。



佐賀県の地形ができた様子
（概念図）



1. 脊振山地の形成
県内で最も古い地質で、脊振山や天山などは、地下深くにあったマグマが冷えて固まってできた花崗岩などが中心です。

2. 佐世保層群・杵島層群・相知層群の形成
海底や湖底などに積もった砂や泥がだんだん固くなり、堆積岩が形成され地層となりました。石炭などの化石がしばしば含まれていることも特徴です。

3. 上場台地、黒髪山、多良岳などの形成
活発な火山活動によりできた大地。西部を中心に広く分布し、玄武岩などからなる上場台地、安山岩からなる多良山系が特徴です。

4. 佐賀平野の形成
筑後川や嘉瀬川などの流れによって侵食された土砂が有明海に運ばれ堆積し、低平な大地となりました。

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館
住所：武雄市武雄町永島16351
電話：0954-20-1666
開館時間：【平日（火～金）】
9時15分～ 17時15分
【土・日・祝】9時15分～ 18時
休館：毎週月曜日（祝日の場合、翌日）
料金：大人510円、高校生300円、
小・中学生200円、幼児（4歳以上）100円

調べてみよう！
自分が住んでいる地域の地質を調べてみよう。

□佐賀県の温泉地

温泉は、地下水がマグマの熱などで温められたものです。佐賀県にはさまざまな泉質の温泉が湧き出ていて、人々の暮らしに役立ってきました。

江戸時代以前から親しまれてきた温泉

※『佐賀縣獨案内』の初版本は、1890（明治23）年に発行。

嬉野温泉　（『佐賀縣獨案内』（復刻版）より）

武雄温泉　（『佐賀縣獨案内』（復刻版）より）

□佐賀平野のクリーク

佐賀平野には多くのクリーク（水路）が整備されています。クリークは農業用水の確保だけではなく、さまざまな機能があります。

クリークの機能

●農業用水をためて水田に送水します。
●洪水時には雨水を一時的にためておき、水害などを予防する働きがあります。
その他、ドジョウやメダカ、トンボなどさまざまな生き物が生息していたり、水と緑が豊かなクリークを利用した公園もあります。

ポイント
佐賀平野のクリーク総延長は約2,000kmにも及ぶとも言われているよ。

（神埼市観光協会 提供）

佐賀平野に残るクリーク（国指定史跡 姉川城跡）

クリークが縦横に巡らされた環濠（かんごう）集落の一つ。昔ながらの良好な状態で残っています。

（佐賀県観光連盟 提供）

横武クリーク公園（神埼市）

クリークを生かした6haに及ぶ公園で、園内のクリークでは釣りも楽しめます。

（佐賀県農山漁村課 提供）

整備されたクリーク

クリークの統廃合によって、直線化された効率的な水路に変わってきています。

佐賀県のシンボル

「佐賀」の名前の由来

日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が巡幸の際に、クスが栄えて繁る様子を見て「この国は栄の国（さかのくに）と呼ぶがよかろう」と言ったという『肥前国風土記（ひぜんのくにふどき）』の記述に由来して「さか（栄）」が「サガ」になったという説など諸説があります。

（佐賀県法務私学課 提供）

県旗

クスの花を図案化して、佐賀県の栄える姿を象徴したものです。（昭和43年12月制定）

（佐賀県広報広聴課 提供）

佐賀県のシンボルマーク

豊かな佐賀の県土と海を表現しており、中央の円は、豊かさの輪であり、恵まれた資源と歴史のうえに、人を中心に自然と文化が響き合い共鳴している様子を表現し、広がりゆく発展性を象徴しています。佐賀を舞台に、県民と日本や世界の人々が交流し、響き合っていく様子を表現しています。（平成4年5月18日制定）

（佐賀県法務私学課 提供）

県紋章

円形は協和を意味し、県民が力を合わせ手をつなぎ合い、一つの力より三つの力でますます三力（さか）える姿と、佐賀の「三力（さか）」を表しています。（昭和11年制定）

（佐賀県広報広聴課 提供）

県鳥（カササギ）

「カチガラス」とも呼ばれ、佐賀平野を中心に生息しています。大正12年には、その生息地が天然記念物に指定されました。（昭和40年5月指定）

（佐賀県広報広聴課 提供）

県花（クスの花）

直径3～4mmで白や淡い黄色のクスの花は5月頃に咲きます。（昭和29年3月指定）

（佐賀県広報広聴課 提供）

県木（クス）

県内では武雄市にある「川古のクス」が最大。根まわり33m、樹齢は3000年をこえると推定されます。（昭和41年9月指定）

※佐賀インターナショナルバルーンフェスタ（佐賀県観光連盟 提供）